僕たちの約束

翔香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
僕たちの約束

【Ｎコード】
Ｎ１００７ＢＡ

【作者名】
翔香

【あらすじ】
幼いころに両親を殺された智、花輪、疾走。
智は、花輪と疾登に施設で「大人になったら犯人見つけてぶっ殺そうな」
という約束をした。
あれから１５年経った今、犯人を捜すが、犯人の似顔絵しか手掛か

りがない

ため、何年たっても見つからない。

次々と襲いかかってくる疾登の悲劇。

衝撃の結末が彼らを待っていた。

突然の出来事

僕は野々神智。今、妹の花輪と、弟の疾登と一緒に昔のアルバムを見ていた。かといって写真はそんなに

なかった。それには深いわけがあった。

「お兄。またいじめられた。」

また花輪が泥だらけになって泣きながら帰ってきた。

「またあいつにいじめられたのか？」

花輪は小さく頷いた。

「まだやってるのか、あれだけ怒ったのに」

「あいつ」とは、花輪をほぼ毎日いじめる水川彩野。

つい2日前に「また花輪をいじめたらどうなるか分かってるか？」と

疾登と一緒に脅してきたんだがまだ反省してなかったのか。

「よし、一発殴ってやろうかなぁ。」

すると、花輪が急に

「それはやめてあげて！」

と言った。花輪は優しいから人を殴るということは許せないらしい。

たとえ自分をいじめた人間だったとしても。

「分かった。でも、もう一回怒ってくるからな。」

「ありがとう。お兄。」

花輪がにっこり笑った。いつもこの笑顔に癒される。

「よし、水川彩野の家に行くぞ！」

花輪は大きく頷いた。

智はテレビゲームに夢中になっている疾登に言った。

「疾登も行くぞ。」

疾登は画面に目を向けたまま

「ちょっと待って」と言った。

智は冷たく「じゃあ置いていくぞ」といった。

すると、疾登は

「ごめん、ごめん。すぐ行く。」と言ってゲームをセーブしてから

家を出た。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1007ba/

僕たちの約束

2012年1月2日10時47分発行